

中学校 道徳 部会

部会長名 赤村立赤中学校 校長 中川 智晴

実践者名 糸田町立糸田中学校 教諭 加藤 睦都

1 研究主題

「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力をはぐくむ道徳科学習指導」
～積極的生徒指導の視点を取り入れた授業を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

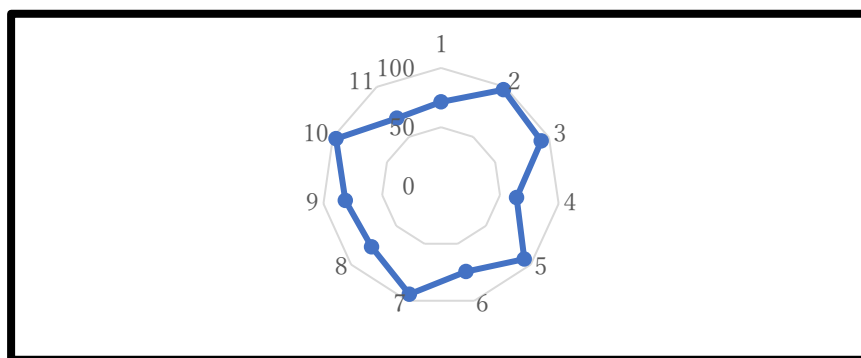
「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は615,351件であり、前年度に比べて98,188件増加している。さらに同調査によると、小・中学校における不登校児童生徒数は244,940人であり、前年度から48,813人(24.9%)増加しているという調査結果や不登校児童生徒数が9年連続で増加しており、約55%の不登校児童生徒が90日以上欠席しているという調査結果が示されている。また、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編(以下、新学習指導要領とする。)」では、「生徒が現実の困難な問題に主体的に対処できることのできる実効性のある力を育成していく上で、道徳教育も大きな役割を果たすことが強く求められた。道徳を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうするべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要と考えられる。」と改訂の基本方針に示している。さらに、「福岡県青少年プラン」によると、「日々の授業や行事等において、全ての子どもが活躍できる場面を実現させる取組「絆づくり」と、人間関係づくりのトレーニングや学級・学校をどの子どもにも落ち着ける場所にしていく取組「居場所づくり」を充実させ、いじめや不登校等を生まない学校づくりの推進が必要である」と述べられている。

(2) 生徒の実態から

本校の生徒は、明るく素直で、行事や日々の学習活動に、真剣に取り組むことができる。さらに、部活動も盛んで、多くの生徒が入部し、日々、練習に励んでいる。

しかし、町内には、小学校と中学校が一枚ずつしかなく、人間関係も変わらぬまま、義務教育の9年間を送っている。そのため、人間関係をうまく築くことができず、生徒同士がトラブルになることも少なくない。さらに、本校の課題として、一番に挙がるのが、不登校生の多さである。令和4年度は、全体の約3割が不登校傾向や不登校という状況である。この課題の原因は、怠学、家庭の事情や人間関係など様々であるが、この状況を改善することは、本校の喫緊の課題である。

さらに、令和4年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙では以下のような回答結果が得られた。



項目番号	項目内容
1	自分には、よいところがあると思いますか。
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
3	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
4	将来の夢や目標を持っていますか。
5	人が困っているときは、進んで助けますか。
6	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
7	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
8	学校に行くのは楽しいと思いますか。
9	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
10	友達と協力するのは楽しいですか。
11	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

【図1】令和4年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙の結果

【図1】より、項目1「自分には、よいところがあると思いますか。」項目4「将来の夢や目標を持っていますか。」、項目6「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」、項目11「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」に対する、肯定的回答が他の項目に比べて低い傾向である。項目1「自分には、よいところがあると思いますか。」は生徒の自己存在感に起因していることが考えられる。また、項目4「将来の夢や目標を持っていますか。」については、先行き不透明な時代において自分の進むべき道を定めることができない、つまり自分の意志決定する機会が少ないことが考えられる。さらに、項目6「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」が他の項目より低いことについては、自分の不安を誰かに伝えることに抵抗を持っていたり、他の意見を参考にして物事をより良い方向に進めることができた経験が少なかったりすることが考えられる。最後に項目11「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」が低い理由としては、失敗することへ恐怖心がある生徒や挑戦することへの価値を見出せていない生徒がいることが考えられる。

3 主題の意味

(1) 主題について

① 豊かな心

「豊かな心」については、「中央教育審議会答申（以下、中教審答申とする）第3期教育振興基本計画について」において、「子供の健やかな成長のためには、豊かな心を育むことが不可欠である。このため、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神等の育成を図ることが重要である。」と説明されている。

② 夢や未来を拓く力

「夢や未来を拓く力」については、「中教審答申 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」では、『生きる力』は、「変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子供たちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力」であると述べられている。

③ 豊かな心を持ち、夢や未来を拓く力をはぐくむ道徳科学習指導

本校が掲げる「目指す生徒像」は「確かな学力を身につけ、自ら考え、意欲的に学ぶ生徒」、「豊かな心と高い志を持ち、将来の夢に向けて努力する生徒」、「心身ともに健康で、たくましく活動する生徒」である。そこで、本研究における「豊かな心を持ち、夢や未来を拓く力をはぐくむ道徳科学習指導」とは、本校の「目指す生徒像」と関連付け、「人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神と的確な思考力・判断力、忍耐力やたくましさを道徳科の授業の中で育むこと」と定義する。

(2) 副主題について

① 積極的生徒指導の視点

「福岡県青少年健全育成総合計画 福岡県青少年プラン 2022-2026（以下、福岡県青少年プランとする。）」では、「全ての青少年の「生き抜く力」の育成」のために、「急速に変化する社会に対応できるように、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解くだけでなく、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して、解決に向けて行動し、意見を表明していくこと」や「青少年の社会的・経済的な自立の基盤となる態度や能力を形成するとともに、就労を支援し、様々な社会参画を促進すること」が重要であると述べられている。さらに、福岡県青少年プランでは、その目標を達成するにあたって、「日々の授業において、一人一人の多様性が尊重され、全ての人々が包摂される社会を形成していくための素地を育てたり、集団的な遊びや自発的、能動的な体験活動を通じて、青少年が自己有用感、自己肯定感を高め、チャレンジ精神、コミュニケーション能力、他者への思いやり等を養ったりすることが必要」だとしている。「令和4年度改訂生徒指導提要（以下、新生徒指導提要とする）」では、生徒指導の目的として、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を

支える」が挙げられる。また、「生徒指導提要の改訂について」では、社会的資質・能力を「自己理解力、コミュニケーション力、共感性など」と説明している。つまり、本研究で育む主題の力は生徒指導の目的を達成するために「自己指導能力」を日々の教育活動を通して身に付けさせることが重要であると言える。

そこで、本研究における「積極的生徒指導の視点」を、「自己指導能力」を身に付けさせるために必要な視点である、「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安心・安全な風土の醸成」の4つの視点と定義する。さらに、新生徒指導提要では、これらの視点を次のように整理している。「自己存在感」については、「集団に個が埋没してしまわないようにするには、学校生活のあらゆる場面で、『自分も一人の人間として大切にされている』という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切である」とある。「共感的な人間関係」については、「自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係をいかに早期に創りあげることが重要である」とある。「自己決定の場を与える」については、「授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が何より重要である」と述べられている。「安心・安全な風土の醸成」については、「児童生徒一人一人が、個性的な存在として尊重され、学級・ホームルームで安全かつ安心して教育を受けられるように配慮する必要がある。」

② 積極的生徒指導の視点を取り入れた道徳科の授業

本研究において、「積極的生徒指導の視点を取り入れた道徳科の授業」とは、1単位の時間の道徳科の授業に、「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安心・安全な風土の醸成」の視点を組み込んだ授業のこととする。

4 研究の目標

「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力をはぐくむ生徒」を育てるために、積極的生徒指導の視点を取り入れた道徳科の授業実践の有効性を明らかにする。

5 研究仮説

道徳科の学習において、「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安心・安全な風土の醸成」の視点を踏まえた授業を行えば、道徳科における見方・考え方をはたらかせ、「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力をはぐくむ生徒」を育てることができるであろう。

なお、ここで言う「道徳科における見方・考え方」とは、中央教育審議会答申「学習指導要領等の改善及び、必要な方策等について」によると、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方を考える」である。

6 研究の計画

(1) 単元「アイツの進路選択」(「中学生の道徳 自分をのばす3」廣済堂あかつき)

主題名 異性理解に必要なもの B-(8) 友情、信頼

(2) 単元の目標

夏樹の進路選択が自身の影響を多分に受けていることに戸惑う主人公の気持ちに寄

り添い、二人がより良い男女交際を目指すためにはどうしたら良いかを考えることを通して、異性に対する理解を深め、相手の人格や考えを尊重し、より良い関係を築こうとする態度を養う。

7 指導の実際

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>1 事前アンケートの結果を確認し、課題をつかむ。 【自己決定】</p> <p>〈アンケートの内容〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 友達に悩みや困ったことを相談したことがありますか？</p> <p>② 相談する相手は同性、異性どちらが多いですか？</p> <p>③ ②でそう答えた理由を教えてください。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(発問) このアンケート結果を見て、気づいたことはありますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの人が友達に相談している。 ・ 相談相手は同性が多い。 ・ 相談相手が異性ではない理由として、考え方が合わないとある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>めあて</p> <p>異性との友情について考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の見通しを持たせるために、生徒に事前に回答させた「悩み相談」に関するアンケートの結果を共有する。 ・ 課題意識を持って授業に取り組ませるために、アンケート結果から分かるクラスの課題を明確にさせる。
<p>2 教材「アイツの進路選択」の資料構図を確認し、主人公の真一の言動について考える。</p> <p>(1) 夏樹の進路変更を知らされた真一の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(発問) 夏樹の進路変更を知らされた真一はどう思ったか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ そんなに一緒にいたいという気持ちがあるのか。 ・ 俺の進路選択が夏樹を迷わせている ・ 自分の夢を追わなくて後悔しないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異性の考え方の差異に気付かせるために、夏樹の進路変更を知らされた時の真一の気持ちを考えさせる。 ・ 生徒自身の考えを深めさせるため、近くの友達と交流する時間を設定する。 【共感的人間関係】

<p>(2) 真一の今後について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(発問) 二人が今後うまくやっていくには真一はどうすべきだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深く考えずに約束したことを謝る。 ・ 自分の将来を大切にすべきだと説得する。 ・ 自分の考えを夏樹に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真一と夏樹はこれまで相互理解を欠いていたということを気付かせるために、真一の今後の言動について考えさせる。 ・ 主発問につなげるために、「話し合う」や「謝る」など意見が出た際は、何について話し合うのか、何について謝るのかを問い返す。 ・ 生徒自身の考えを深めさせるため、近くの友達と交流する時間を設定する。 <p style="text-align: right;">【共感的人間関係】</p>
<p>(3) 異性と良い人間関係を築くために必要なことについて考える。</p> <p style="text-align: center;">【自己存在感】 【共感的人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラゲチャートに自分の意見を記入 ・ 他のクラゲチャートからの意見の書き出し ・ 班で3つの意見を選出 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(中心発問) 異性と良い人間関係を築くために必要なことはなんだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの考えをきちんと話し合うこと。 ・ 相手の立場になって考えること。 ・ 自分の考えを相手に伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な意見に触れ、自身の考えを深めさせるために、ロイロノートの共有機能を活用させる。 ・ 新しい考え方や、自分とは違う考え方に触れさせるために、班でそれぞれの意見を共有し、その共有したものから3つを選出させる。 <p style="text-align: right;">【共感的人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班での交流を活発にさせるために、友達の見解に対して、必ず質問や感想を述べるよう指導する。 <p style="text-align: right;">【安全・安心な風土】</p>
<p>3 本時の感想を記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(発問) 今日の授業の感想を具体的に記入しましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同性間の友情であっても、異性間の友情であっても大切なことは変わらないと思った。これからは、男女分け隔てなく、良い関係を築いていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの考えに触れ、生徒の考えを深めさせるために、感想を数名の生徒に発表させる。 <p style="text-align: right;">【自己存在感】 【安全・安心な風土】</p>

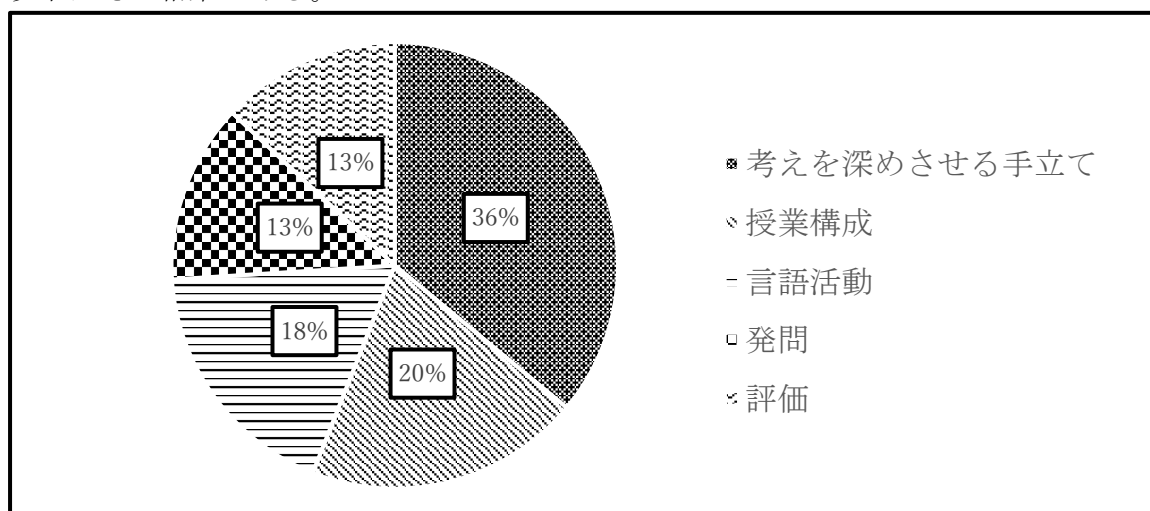
評価

異性に対する理解を深め、相手の人格や考えを尊重し、より良い関係を築こうとする態度が養われたかどうか。

8 研究のまとめ

日々の道徳科の授業の反省から

本校の職員を対象に、道徳の授業における悩みや不明な点に関するアンケートを行った。以下はその結果である。



全体のおよそ4割の職員が「考えを深めさせる手立てや発問等を含む授業構成」に課題を抱えており、具体的には「いつも決まった生徒が発表をする（自己存在感、安全・安心な風土）」、「意見交流が活発にならない（共感的人間関係）」、「生徒の本音を引き出すことができているのか不安（自己決定）」、など様々である。これらの課題の要因は、本研究における「積極的生徒指導の視点」が一単位時間の授業の中に含まれていないことが考えられ、本研究において全職員で「積極的生徒指導の視点」に基づいた手立てを考えることは、本校の職員が抱える道徳科の授業に関する課題を解決することができ、授業改善のきっかけとなることができると考える。

「積極的生徒指導の視点」の具体的な手立て

視点	具体的な手立て
自己存在感の感受	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペア、グループ内における発表の場の設定 ○ ワークシートの交換 ○ クラス全体における発表の場の設定
共感的人間関係の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペア、グループ内での交流活動の設定 ○ ICTを用いた意見交流の場の設定 ○ 思考ツールの活用 ○ 合意形成の場の設定
自己決定の場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートを用いた表現活動 ○ 心情円盤を用いた表現活動 ○ ネームプレートを用いた表現活動
安心・安全な風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 傾聴の姿勢の指導 ○ 教師による共感、賞賛 ○ 計画的な机間指導の実施

9 成果と今後の課題

(ア) 「自己存在感の感受」

- 黒板にネームプレートを貼ることで、自分の立場を明確にすることができた。

- 思考ツールを活用することで、発表が苦手な生徒でも自分の意見を捨てることで安心して学んでいると思った。
- 話し合いの場では、どの生徒も自分の意見をしっかりと持ち、相手に伝えることができた。
- お互いの意見を尊重し合い、理解する姿が多く見られた。
- (イ)「共感的な人間関係の育成」
 - 相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える人間関係を築こうとしていた。
 - 授業後にはお互いをたたえ合う姿や注意し合う姿が見られるようになった。
 - 班で意見を1つに絞らせる際に、お互いの意見を尊重しながら合意形成を図っている姿が見られた。
 - 全体で共有する前に班やグループで友達と意見交流する場を設けることで一人一人の意見を受け入れやすく認め合えた。
- (ウ)「自己決定の場の提供」
 - 日頃の生活を基に自分の意見をもつことができた。
 - 自己決定をする過程で、これからの自分の目標決定にもつながっていた。
 - これまで周りの意見に左右されることが多々あったが、道徳科授業を経て、自分の考えをしっかりとち行動できるようになった。
- (エ)「安心・安全な風土の醸成」
 - お互いの意見を出し合い、自分の考えをさらに深め、友達の考えを聞くことで、様々な気づきや相手の考えを理解することができた。
 - 意見を発表させる前に、ペアやグループで交流をさせることにより、全体の場で安心して意見を発表することができるようになった生徒が増加した。
 - 質問カードを用いることにより、グループ交流の際にお互いが安心して質問したり、自分の意見を伝えたりすることができた。
- (オ)「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力」
 - 道徳教育実態調査（福岡県教育委員会）の結果において、人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力に関する項目で改善が見られた。
- (ア)「自己存在感の感受」
 - 道徳科の授業以外で、このような手立てを打っていなかったことで、戸惑う生徒が見られた
 - ネームプレートを黒板に貼り、自分の意見を表明させる場面で、友達の意見を見ながらネームプレートを貼っている生徒がいたので、改善が必要である。
- (イ)「共感的な人間関係の育成」
 - ペアやグループ内での交流の際に、未だに自分の意見が言うことができない生徒が見られたので、交流の仕方に工夫が必要である。
 - 交流することが目的になってしまっていて、意見を練り上げたり、合意形成を図ったりすることができていない生徒が見られた。
- (ウ)「自己決定の場の提供」
 - 自己決定を促すために、授業の振り返りの時間を設定する必要がある。
 - 自己決定をする際に、「なんとなく」や「周りがそうだから」など、根拠をもちずに自己決定した生徒が全体の半分程度いた。
- (エ)「安心・安全な風土の醸成」
 - 班やペアが変わっても交流ができるように、日頃からこの視点を含んだ手立てが必要である。
 - いつも決まった生徒が発表しているので、グループ交流の際などに役割や手順を明確にする必要がある。
- (オ)「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力」
 - 道徳教育実態調査（福岡県教育委員会）の結果において、公共の精神に関する項目に改善が見られなかった。

主な引用文献・参考文献

- 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省
- 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編』教育出版株式会社
- 伊藤千尋（2020）『教科とその本質—各教科は何を目指し、どのように構成するのか—』教育出版株式会社
- 文部科学省（2022）『令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要』文部科学省
- 福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課（2022）『福岡県青少年健全育成総合計画（福岡県青少年プラン）』福岡県
- 中央教育審議会（2018）『第3期教育振興基本計画について（答申）』文部科学省
- 中央教育審議会（2017）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』文部科学省
- 中央教育審議会（2016）『学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』文部科学省